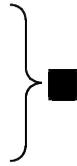


つきよがらす
月夜鳥

作詞 J'Soul (浅羽一)

透明な静寂しじまに吹き抜ける風は冷たくて
口からこぼれる呼吸音が 切り取った時間の波を揺らして
虚空を流れる一羽からすの鳥が
月を見つめて高く鳴く
黒い瞳が月を映し
夜空に…深く…紅く咲く
漆黒の体が月の影になり
硬質はおとの羽音が雲の群れを呼ぶ
月にときめいた月夜鳥は
悠久の丘で一羽鳴く…



星影の雑踏で佇む姿は闇に紛れ
確かな存在を示すのは 地上に刻んだ鈎爪かぎづめの痕だけ
夜と戯たわむれる一羽の鳥が
月に届けと高く鳴く
研くちばしいた嘴はが霧を食む
薄くて…淡い…幻を
■繰り返し

楽園の片隅で交わした約束に
月夜鳥は歌を捧げる
愛を捧げる…

■繰り返し